

- 1) 実施日時 平成28年11月 4日(金)
午後3時30分～午後5時00分
- 2) 実施場所 本校応接室
- 3) 出席委員 田村 仁彦氏 (前堺市立上神谷支援学校 校長) 協議会会長
八田 忠敬氏 (元社会福祉法人理事長)
松林 利典氏 (堺市障害者就業・生活支援センター センター長)
立山 清美氏 (大阪府立大学リハビリテーション学類講師)
吉原 雅子氏 (本校PTA会長)
※オブザーバー 赤阪 博之氏 (堺市立上神谷支援学校校長)

4) 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

本日の協議会が成立

② 校長挨拶

③ 事務局委員の紹介

④ 会長挨拶

⑤ 各委員より状況報告等

(委員)

障がい者就労支援を続けている。登録者が1000人を超えた。現在670人の定着支援のために地域の力、企業の力を借りられるよう働きかけている。

(委員)

介護職の離職者が多いといわれている。障がい者施設でも待遇面の向上が難しい。

(委員)

就労支援コースの実習で来てもらっている、また本校学生の実習で12月よりお世話になる。

(委員)

中学部からの進路が多様化してきた。本校の見学会など取り組んでいる。

(会長)

パラリンピックの選手として出場した卒業生について、成長した姿を見てうれしかった。

⑥ 報告

1. 平成28年学校経営計画進捗について

(校長)

- ・教職員の作業学習担当者人員配置が進んだ、人材育成にも取り組んでいる。
- ・授業力向上の研究授業を行なった。今後、公開授業も行なう。
- ・進路に関して新しい事業所での実習は6箇所でおこなえた。
- ・企業団体へのアピールを行なった。
- ・成美高校との共同学習で、障がい者スポーツに取り組んだ。
- ・ICTによる情報の整理、共有化を図ってきた。
- ・広報誌に掲載し地域の方対象に、パソコン教室を実施した。学習発表会にも招待し障がい者理解にもつながっている。

2. 学校教育自己診断アンケートについて

(教頭)

- ・昨年度、保護者の提出は約60パーセントであったこともあり、より答えやすい質問数・内容を考えた。

⑦ 協議

(委員)

- ・自己診断実施期間はいつか、対象者はどうか。アンケート結果について、公開しているか。

(校長)

- ・実施期間は各学校で決めている。学校協議会で意見を聞き、学校経営計画の自己評価に記載、報告するタイミングもあり、この時期（12月上～中旬）に設定している。対象は全生徒、全保護者、全教職員である。

アンケートの集計結果は本校ホームページに公開している。

(委員)

- ・アンケートのフィードバックはどのようにしているか。

(校長)

- ・職員会議で報告し、各校務分掌などで検討し次年度学校経営計画に取り入れている。

(委員)

- ・教職員の育成について、キャリアがそれぞれで異なる多数の教職員がいる。課題の共有といってもレベルが違う。校長として工夫しているところは。

(校長)

- ・アンテナを高くして教職員の状況をつかむようにしている。教職員からは評価育成システムとして、学校経営計画をふまえて教職員が取り組みたいことを聞き取り、年間の目標を設定する面談がある。また、評価結果について伝える面談がある。そのような機会をとらえて校長から教職員が考えていることを聞き取り、してほしいことを伝えるケースもある。

(委員)

- ・保護者用アンケートについて、自由記入欄をうらにするなど、より見やすく書きやすい様式にするのがよい。

(委員)

- ・保護者として実習先開拓に力を入れているのがうれしい。企業に実習に行きたいが、校内実習の人がたくさんいる。行きたい人にチャンスがあるようにしてほしい。

(委員)

- ・支援教育力の向上について堺市では、初任者に元校長などの専門指導員がつき、指導案作り、研究授業に取り組んでいるが、育成されて力がついている実感がある。
- ・高等部と小中学部の連携を大切に思う。中学部が進路に関する研修を高等部進路より受け、キャリア教育の視点を持ってよかった。これからもより一層、中学部と高等部の連携が深まるような取り組みをお願いしたい。

(委員)

- ・実習場所の確保として、中小企業家同友会の集まりに参加してお願いすることもできる。
- ・ハローワーク主催で就労移行支援事業所の紹介があった、利用等参考にしては。
- ・企業の合同説明会や面接会に参加し、雰囲気を知ることが良い体験になる。

(委員)

- ・進路指導に関しては到達点より、プロセスの評価が大切に思う。その人の「今」だけでなくどんな希望があるかを知り、どうしていくかが大切である。願いを実現していくプロセスを把握し、就労に向けてなぜ、ここを改善するかを明らかにして伝えることが大切である。
- ・自分のことばで書く、言う「コミュニケーション力」に、職員集団の「コラボレーション力」

が加わるよう職員の研修を大切にして事業所としての力の向上を図りたい。

5) まとめ

(会長)

- ・学校教育自己診断アンケートについて、さらに記入しやすい形で改善されたい。
- ・実習先開拓へ保護者より大きな期待があった。
- ・研修会等通じて、中高の連携をより一層図ってほしい
- ・就労率に関して達的評価よりプロセスの評価を考えること。

6) 校長謝辞

7) 次年度の連絡

平成28年 1月 20日(金)に実施予定